

くるまの  
ざっがく  
CAR TRIVIA

このコーナーではクルマに関する  
為になる雑学をご紹介します。  
意外と知らないことがあるかも!?



車を運転中に燃料の警告灯が点灯すると、ガス欠が心配になって焦ってしまう人も多いかと思います。特に、ガソリンスタンドの数が少ない地域を走っている際や、高速道路を走っている途中に燃料警告灯が点灯すると、給油をすることができる場所を見つけるまではハラハラドキドキの運転となってしまいます。しかし、実際に自分の車で燃料警告灯が点灯してから、どれくらいの距離を走るとガス欠になってしまうのでしょうか?それが分かれば、それほど焦ることもなくなるはず。あなたのクルマは、燃料警告灯が点灯してから、実際にどれくらいの距離を走ることができるのでしょうか?

1

## 自分のクルマ、どれくらい走るとガス欠になる?

燃料警告灯が点灯した時点でのガソリンの残量は、燃費の良し悪しによって変わります。つまり、燃費のいいクルマは残量が少なめ、燃費の悪い車は残量が多めに設定されているわけです。



## コンパクトカー アクア、ヴィッツ、フィットなどの場合

比較的燃費のいいコンパクトカーなどは、警告灯がついた時点でのガソリン残量は、5リットル程度が多いようです。コンパクトカーの実燃費が10km/Lを切るということは、渋滞にでもはまらない限りありえませんが、燃料警告灯が点灯してから最悪でも50km以上は走ると考えて良いかと思います。信号の少ない郊外の道路などをのんびりと走るのであれば、70km~80km程度は走れてしまう可能性もあります。



## 軽自動車 ミラ、タント、N-BOXなどの場合

コンパクトカーと同様に、比較的燃費のいい軽自動車の場合はどうでしょうか?軽自動車の場合も、コンパクトカーと同様に5リットル前後の設定になっている車種が多いようです。軽自動車の場合には、4リットルとコンパクトカーに比べて残量が少ない車種もありますが、実燃費を考えた場合、普通に走っている限りでは50km以上は走行可能だと考えていいと思います。



## ミニバン ヴォクシー、セレナ、アルファードなどの場合

2000ccクラスのミニバンですと、およそ7リットル~13リットルほどとなっています。もちろん車種によって異なりますが、軽自動車やコンパクトカーと比べると倍以上の残量となっています。ミニバンですと実燃費が10kmを切ってしまう車種もありますが、残量と実燃費を低く見積もっても50km以上は走行可能と考えていいと思います。

2

## 高速道路のサービスエリアの間隔について

上記では燃料警告灯が点灯してからどれくらいの距離を走れるかをお伝えしました。その結果、すべての車種においてランプが点灯してから50km程度までは、ほぼ間違いなく走れそうということがお分かりいただけたかと思います。思っていたよりも多く走れると感じた人も多いと思いますが、メーカーもこの50km以上を走行できるという点をひとつの目安として設計をしているのだと思います。なぜなら、高速道路のサービスエリアというのは、基本的に50km間隔で設置されているからです。万が一高速道路を走行中に燃料警告灯が点灯したとしても、次のサービスエリアのあるところまでたどり着ける程度の燃料が残っていれば、ガス欠を防げるためです。だからといって高速道路を走る前に燃料計を気にしないでいいというわけではありません。燃料警告灯が点灯してから50km程度は走れるとはいっても、それはあくまでも車がスムーズに流れている場合です。年末年始やお盆の帰省ラッシュ、ゴールデンウィークなどのときに高速道路の渋滞にはまってしまった場合には、燃費が極端に悪化するため、警告灯がついた状態で次のサービスエリアまで走れるという保証はありません。やはり、高速道路を走る前には、しっかりと燃料計の確認を忘れないようにすることが大切です。



3

## もし高速道路でガス欠になったら!?

高速道路上でガス欠を起こすと道路交通法違反となり、2点減点のうえ反則金9000円を支払わなければならなくなりますので、注意が必要です。また、高速道路上で給油が可能なサービスエリアが50kmごとに設置されているというのは、あくまでも原則的にそうなっているというだけで、例外もたくさんあります。

北海道などでは80kmごとが基本ですし、区間によっては170km以上にわたり給油をすることができる場所がない高速道路もあります。うっかりそういう区間を走っているときに燃料警告灯が点灯してしまった場合には、とりあえず高速道路を降りて一般道沿いのガソリンスタンドを探すことが先決です。

